

あさか訪問通信

R1.6月号

歯周病と 全身疾患の関係



日本人の成人「約8割」が患っていると言われている歯周病ですが、実はお口の中だけの病気ではないということも知っていますか？「歯周病が全身疾患へ」また「全身疾患が歯周病へ」与える影響についての研究が、近年進められています。

1 糖尿病

歯周病が発生させる“炎症物質”は、インスリンの“血糖値を下げる働き”を邪魔してしまうため、歯周病を患っていると糖尿病が悪化しやすくなると言われています。また、糖尿病を患っていると、感染症にかかりやすくなります。歯周病は歯ぐきの感染症ですので、糖尿病の人は歯周病にもなりやすいということになります。歯周病と糖尿病は深く関係しており、どちらもお互いを悪化させる原因の一つとして挙げられています。逆を言えば、一方が改善すれば、もう一方も改善するということです。



2 心臓疾患・脳血管疾患

歯周病菌は、炎症部分から血管に入り込むと、血流に乗って全身を巡ります。血管内に入り込んだ歯周病菌は、血管の壁に炎症を起こし、血管内を傷つける原因となります。傷付いてしまった血管の中では、炎症と修復が繰り返され、その際に「血栓」を作り出すことがあります。この血栓が脳で出来れば「脳梗塞」に、心臓で出来れば「心筋梗塞」を引き起こします。歯周病を患っている人は、そうでない人に比べ、脳梗塞に2.8倍なりやすいとも言われています。



3 誤えん性肺炎

誤えん性肺炎は、本来、胃に辿り着くはずの「食べ物」や「唾液」が、誤って気管や肺に入り込むことによって発症します。本来であれば、咳をすることで誤えんを防ぐことが出来るのですが、喉の機能が衰えている高齢者ではそうはいきません。その為、高齢者が患う肺炎の多くが「誤えん性肺炎」だと言われています。そして、誤えん性肺炎から見つかる細菌のほとんどが「歯周病菌」を含む口腔内細菌です。お口の中の細菌数は、歯磨きでコントロールすることが出来ます。誤えん性肺炎を予防するためには、お口の中の清潔を保つことが大切です。



4 骨粗しょう症

骨粗しょう症は、エストロゲンが減少した50歳以降の女性に多い病気です。エストロゲンが減少すると、骨の形成と吸収のバランスが崩れ、骨が弱くなります。歯や歯を支える骨も弱くなりますので、骨粗しょう症を患っている人は、歯周病が重症化しやすくなると言われています。また、骨粗しょう症のお薬（BP製剤）を服用している方は、抜歯などの外科治療が難しくなります。その為、治療の必要がない健康な口腔内を維持することが必要になってきます。



6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です。いま使っている歯ブラシは、毛先が開いてきていませんか？普段の歯磨きを見直したり、歯科受診をしてお口の健康を保っていきましょう。



歯周病専門医の佐藤先生が、勉強会を行ってくれました。

医療法人 寛友会
浅賀歯科医院

浅賀・敬デンタルクリニック